

研究成果概要

申請タイトル： 南アルプス農山村地域の生業変容を生きる女性たちの生活史研究
—伝統焼畑農法と雑穀文化の維持に着目しながら—

申請者氏名： 張曼青（共同研究者：周玉琴）

①研究の背景

静岡県井川地域において古くから焼畑農業が行われ、雑穀栽培や狩猟などの複合的な生業が為されてきた。しかし、近代化と経済開発に伴う生業構造の転換、さらに農山村の人口減少を背景に、伝統的な焼畑農法と在地の雑穀文化は衰退の一途をたどる。なお近年、伝統的な焼畑農業の復活を目指し、地域では焼畑農業で在来作物を栽培する取り組みが進められている。また、在来作物としての雑穀を使った伝統食や郷土料理を復活させる実践も見られる。例えばJ A静岡市井川支店女性部が運営するお食事処である井川農林産物加工センター「アルプスの里」では、地元作物を料理に取り入れている。一方で、山村地域における急激な人口減少が進む中、外部から流入した移住者にも目を向けなければならない。そこで、本研究では、地域の人々はいかに種々な社会変容に適応しつつ従来の焼畑農法と在来作物を柔軟に維持することができたのかを明らかにしたい。ここで特に女性の生業活動に着目していきたい。その理由は、従来の女性は農業や「イエ」において副次的な立場に置かれることが多かったが、近年では女性が地域づくりや農業の重要な担い手となっているためである。一方で農山村女性の視点からの研究は十分とはいえない。

②研究の方法

申請者と共同研究者は、2023年7月～2024年2月までの間に、断続的に静岡県井川地域に滞在して、資料収集及び聞き取り調査、参与観察を実施してきた。

③研究の成果

まず、南アルプス地域の郷土資料を入手し、焼畑農業と雑穀栽培の歴史を把握した。また、現在に至り、焼畑と雑穀の栽培の主体は分離してきていることを確認した。生業だった焼畑が、「遺産化」し、地域おこしのイベントとして行われている状況について、聞き取り調査からその実情を明らかにした。現在のやり方とその機能について、従来の「生業としての焼畑」との比較を行いながら分析してみた。さらに、常畑で雑穀を栽培する農家への聞き取り調査を通して、現状と課題を整理した。地域の女性について、雑穀栽培・加工販売においても女性が果たしてきた重要な役割を明らかにした。また、女性活躍する場である「アルプスの里」、「ビジターセンター」、「おでん屋てしゃまんくの里」などに訪れ、従業員に対し聞き取り調査を実施した。兼業が普遍的に存在する井川地域において、それぞれ複雑に交叉する女性たちのライフストーリーを聞き取った。さらに、地域外から移住してきた移住者などの「他者」たる人々を対象にも、地域との関わりやアイデンティティなどを含めて総合的に調査した。特に、工事や仕事のため地域にいる「アウトサイダー」と、地域の活動にも積極的に参加している「移住組」や、ここで代々住み続ける家の女性「じねんじょ」を重点的な対象とし、インタビューを実施した。地域の「他者」のアイデンティティおよび「自分が地域の人」と認識する・しない詳細な過程を分析している。

④研究の意義と展望

本研究はまだ途中ではあるが、「他者」による地域文化の継承に関する通時的な分析を引き続き行い、さらに地域の女性史の作成を目指していきたい。